聖書の言葉

平和を実現する人たちは
幸いである。
その人たちは
神の子と呼ばれる。
マタイによる福音書5章9節

シャロームタイムズ

2024年8月11日（日）発行

宗教法人
野毛山キリストの教会
〒220－0032　横浜市西区老松町30番地

平和聖日

今年は8月4日を当教会の平和聖日として、平和について考え、過去の戦争の過ちを忘れないように、風化されないようにと覚えて礼拝をささげました。平和の祭典、パリオリンピックが開催された一方では、ロシアとウクライナ、イスラエルとハマス、世界で戦争がと続いています。また、日本国内で自然災害が起こり、困難な生活をされている方々がたくさんおられます。毎日のように残虐な事件が起こっています。キリストによる平和を祈らずにはいられません。

説教

敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい　より

聖書　マタイによる福音書5章38～48節

牧師　奈良　昌人

平和聖日に与えられたみ言葉は、44節「しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」です。これは言葉としては分かるけれども実現不可能と思われる主イエスの言葉です。しかし、キリストの教会は二千年の間、この言葉を主イエスからの命令として大切にしてきました。39節では具体的に語られます。「しかし、わたしは言っておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。」ここで主イエスが言われているのは、右の手の甲で相手の頬を打つということです。当時、手の甲で頬を打つのは、相手に対しての侮辱を意味しました。つまり、主イエスは、喧嘩の時にどうするかではなく、人に馬鹿にされ侮辱されてもやり返すな、と言っておられるのです。となると、ますます難しいと思わされないでしょうか。しかし、この言葉もまた受け継がれてきました。辺境の地ガリラヤから始まった主イエスの言葉は、全世界に広まっていったのです。それは、この主イエスの言葉には力があったからです。その力とは、人間を変え、世界を変えていく力です。そして、その力の源こそ、愛なのです。右の頬を打たれるということは、その人との関係が最悪の状態、敵対関係になったということを示し、その敵対関係を打ち破り、和解へと至るのは、赦しであり、愛なのだと主イエスは言われます。私たちは、右の頬を打たれたら、殴り返したいと思うのではないでしょうか。しかし、主イエスは、それでは敵対関係は全く解決されないと言われるのです。解決されないどころか、報復は報復を呼び、憎しみの連鎖は途切れることなく続いていきます。イスラエルとハマスの戦闘がそのことを今まさに世界中に、そして遠く離れた日本人にも教えています。その憎しみの連鎖を断ち切るのは、赦しであり、愛なのです。主イエスは、憎しみには愛をもって応えよと言われます。それで44節の「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」へとつながっていきます。敵を愛する・・・。何と不可能なことかと思います。相手は自分を侮辱し、迫害する人です。どうしてそんな相手を愛せるでしょうか。当時、ユダヤの人々は、自分たちだけが救われ、異邦人や律法を守らない人は滅びると考えていました。ユダヤの人々にとっての隣人とは、律法を正しく守る同じユダヤ人であり、それ以外の人は敵だったのです。しかし、主イエスはここで「敵を愛せ」と言われます。それは、私たちが敵と考えている人も隣人であり、赦し、愛さなければならない相手なのだということです。敵もまた隣人なのです。この人は自分の隣人か敵か、それを決めるのは私です。線引きをしているのは私です。主イエスは、その線引きを止めよ、敵をも隣人として愛せと言われたのです。その根拠は一つです。45節「あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。」神さまの愛は、善き人を愛し、悪しき人を敵とするというものではありません。神さまは善人と悪人の線引きをされないのです。主イエスの十字架はすべての人の罪の救いのためでした。この神さまの愛に生きることが、神の国に生きるということであり、この神さまの愛に生かされた者として敵を愛しなさいと告げられたのです。この主イエスの言葉に本気で従ったマーティン・ルーサー・キング牧師は、1960年代のアメリカ合衆国の公民権運動、黒人解放運動の指導者で、彼の父も牧師でした。キング牧師は、この主イエスの言葉に従い、非暴力主義を貫き、人種差別撤廃運動を行いました。キング牧師は39歳の若さで、ライフル銃で狙撃されて死にました。しかし、50年後、黒人のオバマ大統領が誕生し、今年また、女性のハリス副大統領が大統領に就任するかもしれません。主イエスのこの言葉がキング牧師を動かし、アメリカを変えたのです。もちろん、この世界が神の国になったわけではなく、アメリカの社会の中に人種差別は今も色濃く残っています。先日、トランプ氏の黒人の集会での発言が問題視されていました。しかし、この世界が神の国に向かっていかなければならないこと、向かっていけること、そして主イエスの言葉には力があることを、この出来事は私たちに示しているのです。あのマザー・テレサは「愛」の反対を「無関心」と言いました。「愛する」は、ギリシャ語でアガパオーで、それは「大切にする」「大事にする」ことです。戦国時代の初期の日本語訳では「神の愛」を「神の御大切」と訳しました。大事にしないということは無関心ということになります。敵を愛することとは難しい、しかし大事にすることはできます。越後の上杉謙信が宿敵甲斐の武田信玄の領民が塩がなくて困り切っていると聞き、敵に塩を送りました。この精神は日本人が伝統的に非常に誇りとし、尊敬するところです。「敵を愛する」というのはこのことではないでしょうか。ですから、主イエスは言われます。自分に親切にしてくれる人に親切にしたからといって、特別立派なことをしたということにはならない。そんなことは当たり前だ。嫌なやつを大事にすることこそ人間として尊敬に値する。そういう人を私たちは「できた人だ」というのではないでしょうか。私たち一人ひとりができることから、そして、各国の首脳がそのような為政者であることを願ってやみません。

私の小さな戦争体験

平岡　富美子

敬礼！上級生の号令でみんなおじぎをしました。

尋常小学校1年生になった私は近所の上級生に連れられ登校しました。校門を入り運動場の奥にお城を小さくしたような白い壁の建物、奉安殿がありました。その前にみんな並びおじぎをしたのです。その後、教室に入りました。

教室で勉強していると、突然ウーウーと警戒警報のサイレンです。みんな急いで教室を出て、近くの堀わりに行くのです。そこでじっと黙ってしゃがんでいました。堀わりは校門の前の道をまっすぐに走らせるため近くの山を二つに割って作った所です。上からは見えないだろうと生徒は避難させられました。

ある日の体操の時間でした。先生は丸太で作った長さ10センチ位の物を持って「皆さん、これを手榴弾と思ってください。敵が近くに来た時、敵に投げるのです。そしてすぐ逃げます。今日はその稽古です。」みんなで丸太を投げては拾い、拾っては投げて、一生懸命、稽古しました。

私の出身は愛媛県温泉郡粟井村久保です。今は松山市と合併しました。道後温泉より北へ20㎞の所です。近くの海は瀬戸内海、家の前には粟井川が流れ、当時の国鉄の汽車も走っていました。

尋常小学校への入学はとても嬉しかったです。昼間遊んでる年上の人と同じように学校に行くことが出来たからです。

遊んでいる時、役場のサイレンが鳴ると大人も子ども皆急いで防空壕に入りました。大人1人が入り口で空を見上げ、みんなは奥に入りシィーシィーと黙っていました。B29が夜来ると、電灯に黒い布をかけたり、電気を消して暗くしました。

ある日、隣の部落にB29が飛んできました。畑で仕事をしていたおばあさんは隠れる所がなく右往左往していたそうです。B29はおばあさんをねらって焼夷弾を落とし、おばあさんは焼夷弾に当たって死にました。私はB29にねらわれたおばあさんはどんなに怖かっただろうと可哀想かわいそうといつまでも忘れられることができませんでした。

松山大空襲の時です。7月19日夜11時頃でした。家の前から見る松山の空は真っ赤でした。怖くて震えながら見ました。松山城の近くは焼け野原となり、259名亡くなられました。

8月15日大人も子どもも隣の本家の庭に集まりました。ラジオの玉音放送を聞くためでした。終わって、大人の人が黙ってうつむいていた姿が忘れられません。子どもにはわかりませんでした。

戦争は終わったのです。もうB29は来ません。安心して過ごせました。食べ物も着る物も日用品も十分になく配給でした。[illegible]着せてもらいました。

今、世界ではロシアのプーチンによってウクライナ侵攻がはじまり、ガザとイスラエルの戦い、世界の多くの国々、日本もと思いますが、何らかの形で戦争に関わりあって戦争は拡大しているように思われ心配です。主の祈りに「みこころが、天になるごとく地にもなさせたまえ」とあります。地上にも神様が与えてくださる平和でなければと切に願い祈っています。

終わりに、信仰は聞くことにより、しかもキリストの言葉を聞くことによるとのみ言葉があります。いつも野毛山キリストの教会で、神様を待ち望む静かな心とされ、私もその群れに加えられている大きな恵みに心から感謝をささげ、主を褒めたたえています。

聖書の言葉
平和を実現する人たちは
幸いである。
その人たちは
神の子と呼ばれる。
マタイによる福音書5章9節

シャローム タイムズ

2024年8月11日（日）発行
宗教法人
野毛山キリストの教会
〒220－0032　横浜市西区老松町30番地

絵本　ヒロシマの少年　じろうちゃん　作・やまだみどり　絵・みなみななみ

1945年8月6日ヒロシマ、少年は地獄を見ました。60年以上「傷」を抱えたまま心を閉ざして生きてきた少年。2011年3月11日フクシマ、80歳になった少年は話し始めました…
この少年の妹　山田みどりさんがお兄さんのことを書き、みなみななみさんが絵を描かれて、一冊の絵本になりました。
最後に流れた広島で被爆したエノキで作ったコカリナで黒坂黒太郎さんが演奏された「空」その音色は心を打つものでした。
私たちにできることは何かを問いかけてくれているようでした。

広　島　（ヒロシマ）

1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分。原子爆弾リトルボーイは、第33代アメリカ合衆国大統領ハリー・　S・トルーマンの原子爆弾投下の大統領命令を受けたB-29（エノラ・ゲイ）によって投下されました。

この１年に亡くなった方　　5079人
計344306人

長　崎　（ナガサキ）

広島の3日後の1945年8月9日午前11時2分、B-29（ボックスカー）が長崎市に原子爆弾ファットマンを投下しました。

この１年に亡くなった方　　3200人
計198785人

絵本　「けんぽう」のおはなしより　原案・井上ひさし　絵・武田　美穂

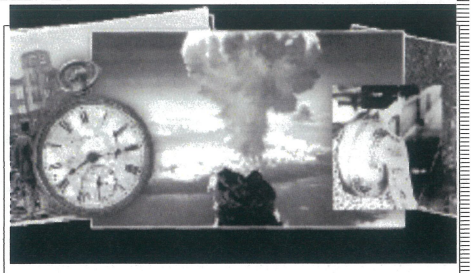
昨年のこの平和の会では平塚敬一兄が「憲法９条の理念」というお話をしてくださいいました。現在の朝ドラは憲法が題材として出てきますそこで今年は「憲法」をとても大切に想われていた作家の井上ひさしさんが2010年に亡くなられる前に、実際に子どもたちに話したことをもとにつくられた絵本をまとめて作った映像を観ました。

①私が子どもの頃は大きくなったら、兵隊さんになるのが当たり前で、先生から「君たちは２０才までは生きられない。国のために、みんなが犠牲になることが正しいことだ」と学校で教わりました。先生や年上の人の言うことを聞かないと、たたかれて、子どもの頃は、自分の好きなことはできない、とてもつらい時代でした。
②戦争が終わったのは１９４５年８月１５日、今から７９年前のことです。
もう、戦争に行くこともないし、武器をつくることもない。先生から「これからは自由ですよ」と言われた時はとてもほっとしました。
③空を見上げると青い空。それまではB29というアメリカの大きな爆撃機が飛んでいました。爆弾が落っこちて来るかもしれませんから、空を見上げる気持ちにはなりませんでした。
④日本は戦争に負けて、たくさんの人たちが亡くなりました。
一方、日本人は2000万人ものアジアの人たちの命を奪いました。
戦争によってたくさんの命が奪われたのです。戦争をしていいことはあったのでしょうか。ただ恐ろしくて悲しいことが起こっただけです。
私たち日本人はそれを思い知らされました。
⑤そこで、このような新しい「決まり」をつくったのです。
⑥国を守るために、戦争をしなくてはいけないことがあるでしょうか。
でも、そこに住んでいる一人一人が幸せにならなかったら何の意味もないでしょう。
国の幸せのためにみんながあるのではなく、みんなの幸せのために、国があるのです。
⑦だから、国や社会のために、一人一人が犠牲になることはやめよう、
「個人を尊重しよう、大切にしよう」と決めたのです。
⑧私たちの周りにはいろいろな約束やルールがあります。学校やそれぞれの場所の決まりは、みんなが安心して過ごせるように学校・それぞれの場所が決めたものですから、みんなはそれを守らなくてはいけません。
⑨「憲法」は学校やそれぞれの場所の決まりとは少し違います。
⑩「憲法」は同じ「決まり」でも、国や政府が守らなければならない「きまり」です。
国や政府は大きな力をもっています。国をおさめている人たちがその力を利用して好き勝手なことをしないように、わたしたち国民が歯止めをかけているのです。
「憲法」は自由を守ってくれているのです。

「幸せ」だと思うのはその人によって違います。自由というのはとても難しいです。
私たちの周りにはいろいろな人がいます。
みんな違って当たり前。
意見が違うときもあります。
⑩そのかわり、ちゃんと自分で考えて自分のしあわせは自分で決めます。
えらい人が「こうすることが幸せです。」と言ってもいやだったらいやと言っていいのです。大臣や政治をする人は、私たちが選挙で選んだ代わりの人です。
それは、国民の数は多いからみんなが一つのところに集まって思い思いに言いたいことを言っていたら大変なことになります。
だから、みんなの代わりに仕事をしてくれる人を選挙で選んでいるのです。

でも、選んだ人がいつも正しいとは限りません。
それをみんながちゃんとみて、間違った方向に行こうとするときは正さなければなりません。
⑪人間はひとりひとり違うから意見がぶつかって喧嘩になってしまうことがあります。
それは国と国の場合も同じで、うまく解決しないとそれはけんか…つまり、戦争になってしまうのです。
国どうしのけんかにならないためにはどうしたらいいでしょう…

武器をつくって誰も攻撃できないようにして、自分たちを守ろうとする国もあります。攻撃して、歯がたたないとわからせるためにやっていることです。これも、けんかをしないためのひとつの方法です。
でも、このやり方は地球にとって危険なことです。どんどん強い武器がつくられて、それが本当に使われてしまったら地球は滅んでしまいます。
⑫もう一つの方法は、どんなことがあっても、とことん話し合うというやりかたです。
日本は戦争をしないために、いっさい武器を持たないと決めました。
それが憲法の中の「９条」に書いてあります。ひとり一人の人間をかけがえのない存在として大切にする社会。
これからも違いを認めつつそれぞれを大切にしてください。



平和への誓い

目を閉じて想像してください。緑豊かで美しいまち。人でにぎわう商店街。まちにあふれるたくさんの笑顔。79年前の広島には、今と変わらない色鮮やかな日常がありました。昭和20年（1945年）8月6日午前8時15分。「ドーン！」という鼓膜が破れるほどの大きな音。立ち昇る黒味がかった朱色の雲。人も草木も焼かれ、助けを求める声と絶望の涙で、まちは埋め尽くされました。ある被爆者は言います。あの時の広島は「地獄」だったと。原子爆弾は、色鮮やかな日常を奪い、広島を灰色の世界へと変えてしまったのです。被爆者である私の曾祖母は、当時の様子を語ろうとはしませんでした。言葉にすることさえつらく悲しい記憶は、79年経った今でも多くの被爆者を苦しめ続けています。今もなお、世界では戦争が続いています。79年前と同じように、生きたくても生きることができなかった人たち、明日を共に過ごすはずだった人を失った人たちが、この世界のどこかにいるのです。本当にこのままでよいのでしょうか。願うだけでは、平和はおとずれません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。一人一人が相手の話をよく聞くこと。「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。私たちにもできる平和への一歩です。さあ、ヒロシマを共に学び、感じましょう。平和記念資料館を見学し、被爆者の言葉に触れてください。そして、家族や友達と平和の尊さや命の重みについて語り合いましょう。世界を変える平和への一歩を今、踏み出します。

こども代表　広島市立祇園小学校6年　　加藤晶
広島市立八幡東小学校6年　石丸優斗

第九条　日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
②　前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。